

あまがさきAI利活用アクションプラン (R8年度版)

令和8年（2026年） 4月

1. 目指す姿・現状
2. 5つの主要取組・3つの中間KPI
3. 各取組の概要

◆ 本プランの策定目的

本市がDXをより効率的に進めるには、昨今急激な進化を遂げる**AI技術**の活用が不可欠である。本プランは、**あまがさき共創DXプラン**の下位計画に位置し、AI利活用の具体的なアクションを定めることで、本市を**AI先進市**へと移行させるためのものである。

◆ 本プランにおけるAIの分類

汎用型AI



チャット形式で指示を与えて、テキスト・画像・動画などを生成するAI

- 主なサービス
 - ✓ ChatGPT (OpenAI社)
 - ✓ Gemini (Google社)
 - ✓ Claude (Anthropic社)

業務特化型AI



個別業務に特化した専門的なAI
(独自の学習データやロジックを保持)

- 主なサービス
 - ✓ 音声文字起こしAI
 - ✓ 電話対応AI
 - ✓ インフラ画像解析AI

内製型AI



専用のノーコードツールで作成されたAI
(汎用型AIを独自にカスタマイズする)

- 主なノーコードツール
 - ✓ Dify
 - ✓ Copilot Studio
 - ✓ Vertex AI Agent Builder

1. 目指す姿・現状

1-1. AI利活用の目指す姿

まずは、本プランの策定をもって、本市におけるAI利活用の目指す姿を定義する。

目指す姿

市民サービス向上・業務効率化に向けて、全職員がAIを安全に使いこなし、業務プロセスをAI前提にアップデートすることで、**自他ともに認めるAI先進市**になる

目標値（DXプラン2.0より）

業務改善時間	20,000時間/年 <small>※AIに限らない</small>	(R6実績 : 約15,000時間/年)
生成AI利用回数	700,000回/年 <small>※3000人が1日1回利用</small>	(R7実績見込 : 約100,000回/年)

※より解像度の高いPDCAを回すべく、本プランをもって“中間KPI”の設定を行う（後述）

1-2. AIの社会動向 (AI年表)

以下に、R7年度の主要なAIイベントを整理（時期はおおよそ）。急速な技術進化だけでなく、**国による制度設計・推進活動が本格化している**。また、総務省の調査によると「個人におけるAI利用率」も昨年から**約3倍**となっている。

	過去	R7 (2025)							
		1Q		2Q		3Q		4Q	
技術トレンド	AI 生成AI RAG ChatGPT Gemini, Claude DeepSeek	画像生成	ガバメントAI (源内)	AI エージェント	動画生成	AI-Ready	ソブリンAI	フィジカルAI エッジAI	
国	一部府省庁で ガイドライン策定	各府省庁に CAIO設置	AI法成立	自治体での CAIO設置推奨	自治体向け AIガイドブック策定	人工知能 基本計画	国会答弁に AI試行決定		
NATS	AI電話対応 AIチャットボット 戸籍書籍検索AI (吹田市)	AI-OCR (吹田市、豊中市)	子育て相談 チャットボット (豊中市)	保育データの AI分析 (豊中市)	東大院と 連携協定 (西宮市)				
本市	入所判定AI AI相談システム 文字起こしAI	生成AI実証 ガイドライン策定	生成AI 本格導入	児童相談 音声マイニング 導入決定	児童相談 チャットボット 実証決定	AI-OCR 導入	AIオンデマンド交通 実証実験		

1-3. 【参考】人工知能基本計画（R7.12.23）

内閣府の人工知能戦略本部によって、[人工知能基本計画](#)が策定された。

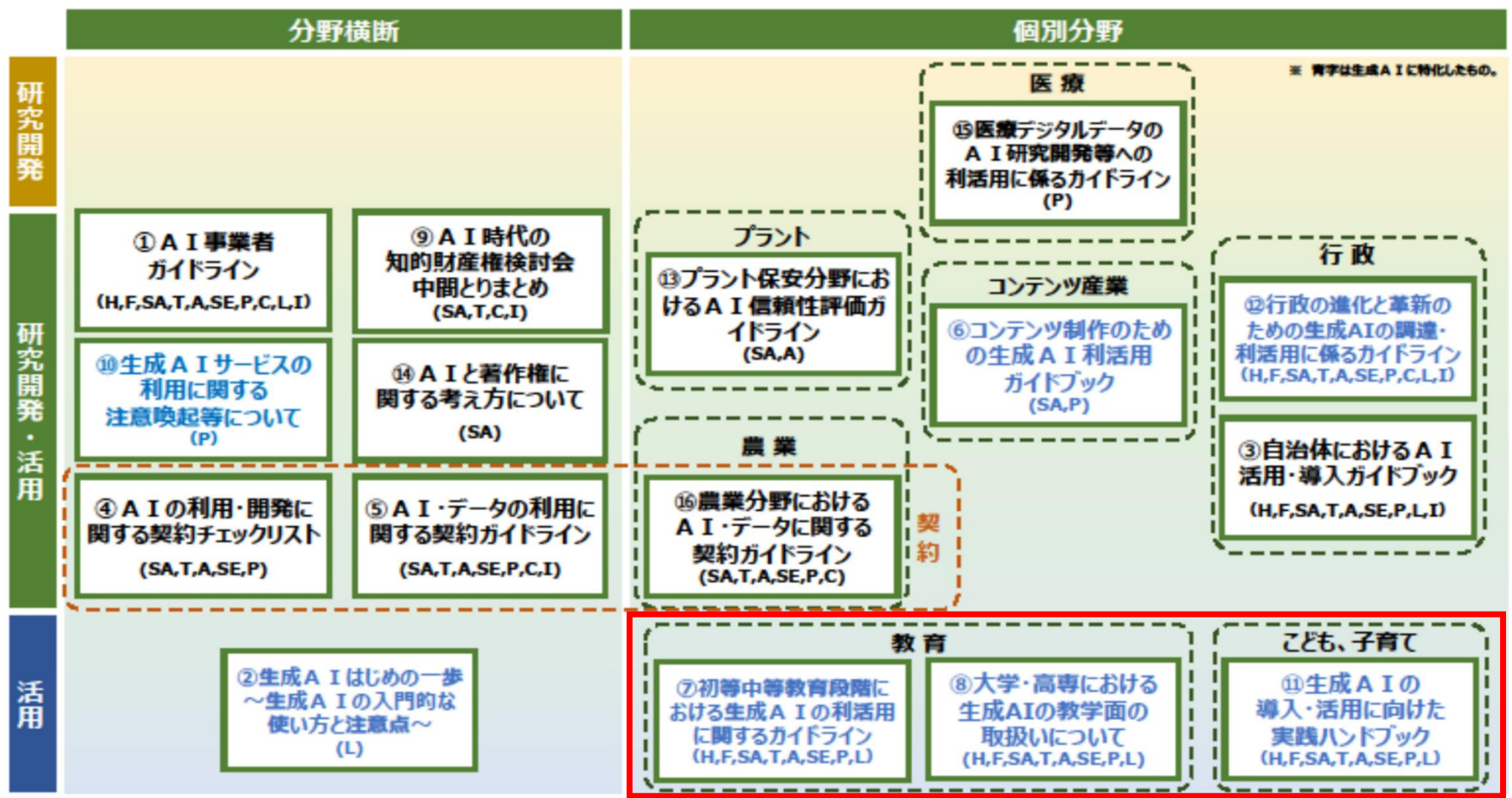
具体的な取組（抜粋） ※概要版_AI利活用の加速的推進（AIを使う）より

- **まず使ってみるという意識**を広く社会に醸成。
利活用の阻害要因であるAIによる**効果やリスクへの理解不足等の解消**に努める。
- 政府による適正な調達・利活用を先導し、AIの信頼性・透明性を確保。
地方自治体の持続的な行政サービスに向けた、**AI導入環境の整備**
- 地方創生、経済再生及び国民生活の質の向上に資するAI利活用を促すため、
AI利活用を前提に既存の規制や制度の見直しを先導的に推進。
- AIの徹底した利活用や性能向上のため、**データの集積・利活用**、特に組織を越えたデータの共有及び官民連携によるデータ利活用を促進。データの安全性確保を図ることを含めて、戦略的に推進。

市民の個人利用も当たり前になりつつある中、
行政が先導してリテラシーを身に着ける必要がある

1-4. 【参考】各府省庁のガイドライン一覧

国では内閣府・デジタル庁が中心となってAI活用を推進しているが、各府省庁でも様々なガイドラインが策定されている。特に図右下（赤枠）のものは、業務に即したユースケースが掲載されており、**関係局は是非一読いただきたい。**



【出典】人工知能関連技術の研究開発及び活用の適性確保に関する指針 - 科学技術・イノベーション - 内閣府

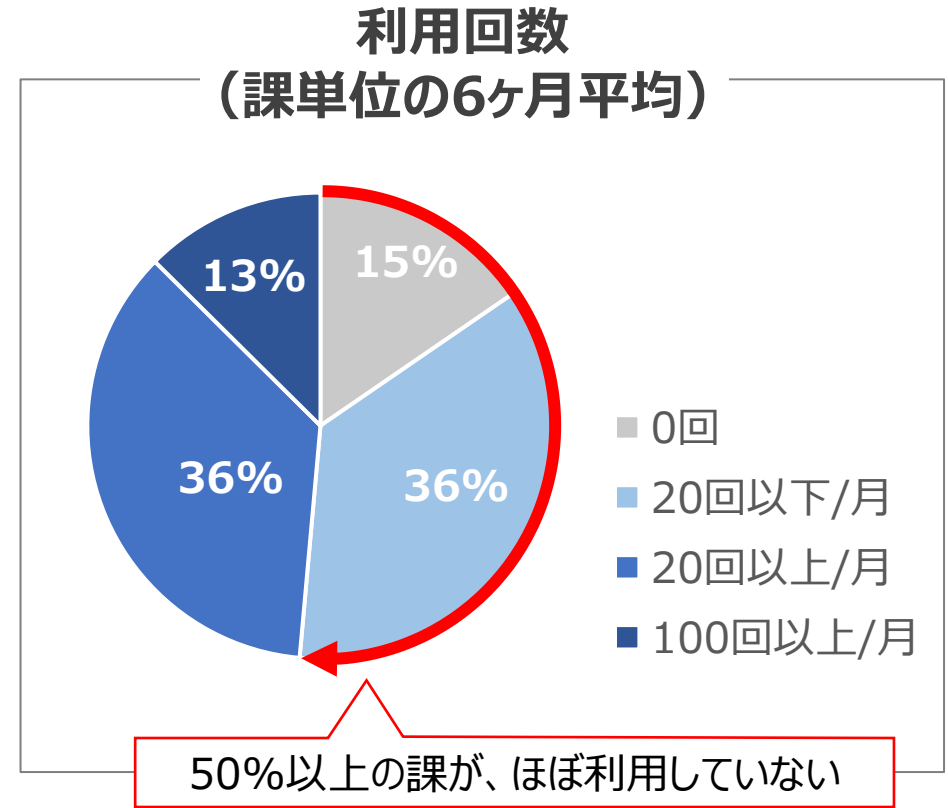
1-5. 汎用型AIの現状（本市）

続いて、本市および他都市のAI活用状況を共有する。

◆ 汎用型AIの利用状況 ※R7年度に本格導入

当初の事業目標は既に達成済だが、D・Xの両面で課題あり

- ✓ (X)
DX推進員向けの研修や、生成AI通信の隔週発行を行っているが、**全庁的な利用率は、まだまだ低い**（右図の通り、二極化している）
- ✓ (X)
積極的に活用している職員もいるが、AIを前提とした全庁的なプロセス改革は行えておらず、活用範囲が**個人レベルに留まっている**
- ✓ (D)
導入しているAIサービスについても、**市場の中で後れを取っている**
※実証当初は先進的なものだったが、他サービスの進化が著しい

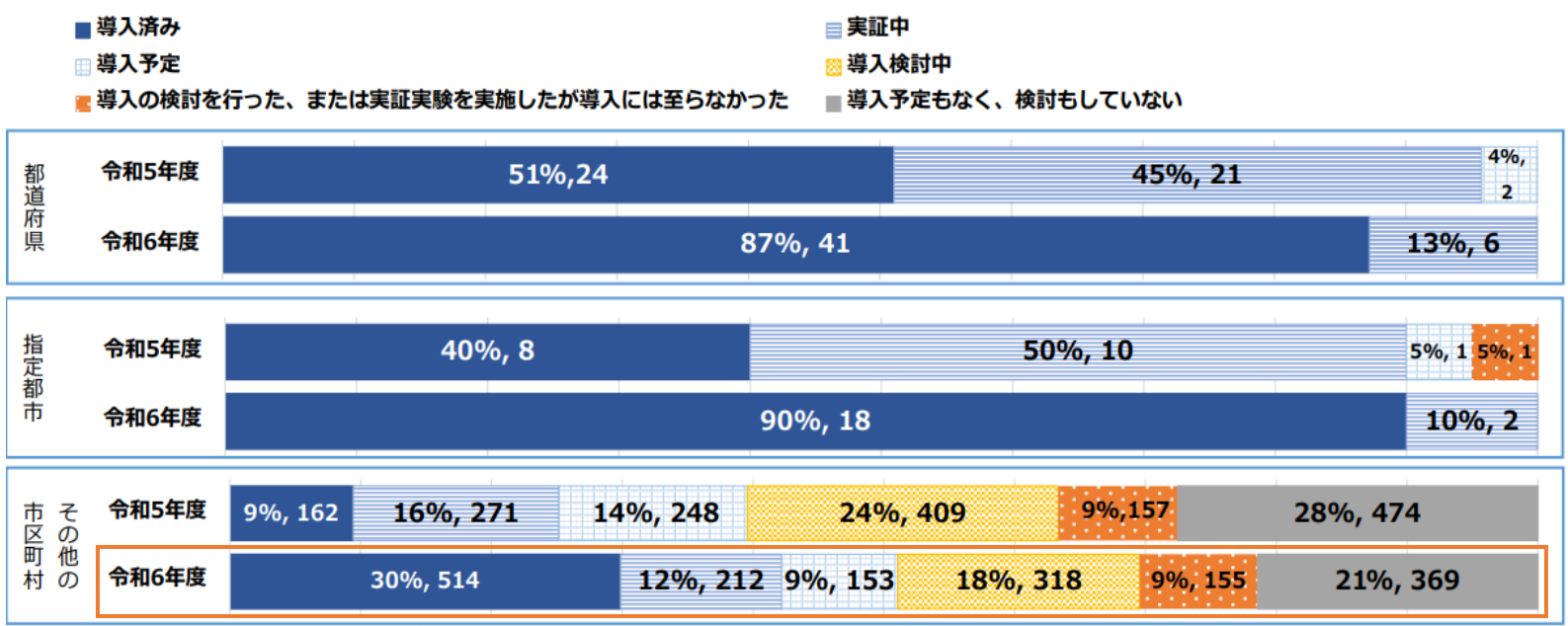


使いやすいサービス環境を整えながら、
「まずは使ってみる」という風土醸成・人材育成を行う必要がある

1-6. 汎用型AIの現状（他都市）

総務省の調査（R6）によると、R6年度時点で生成AIを導入済・予定・実証中の割合は、都道府県・政令市で100%、市区町村では**51%**となっている。また、[神戸新聞の調査（R7）](#)によると、県内での同様の割合が**90%以上**となっている。

【全国】



導入済・予定・実証中が51%

【県内】



同様の割合が90%以上

AIは既に自治体の標準装備となっており、
 今後は、AIを前提としたプロセス改革が焦点となる

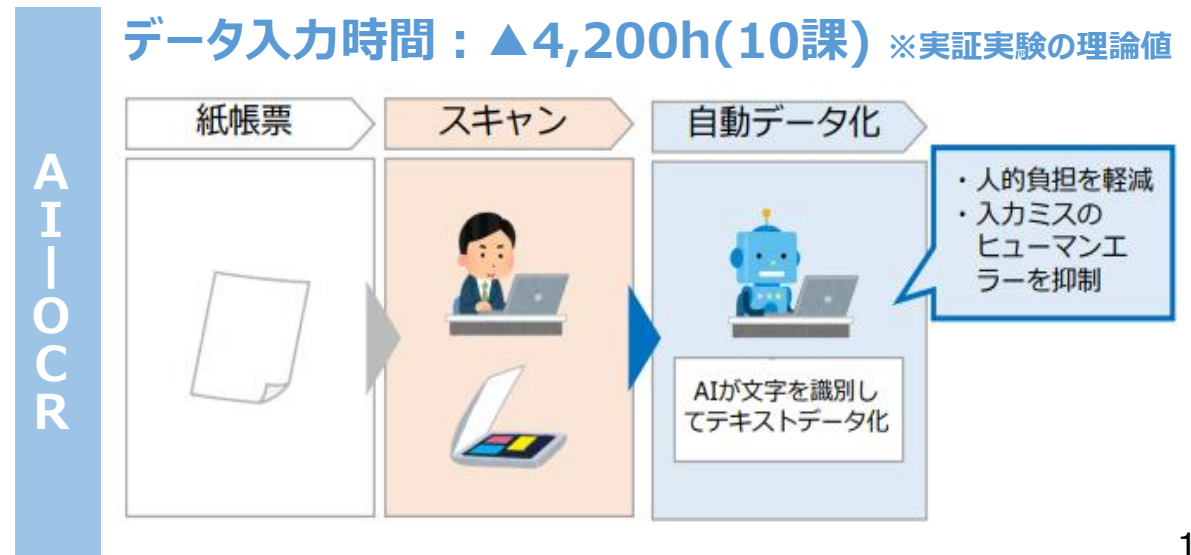
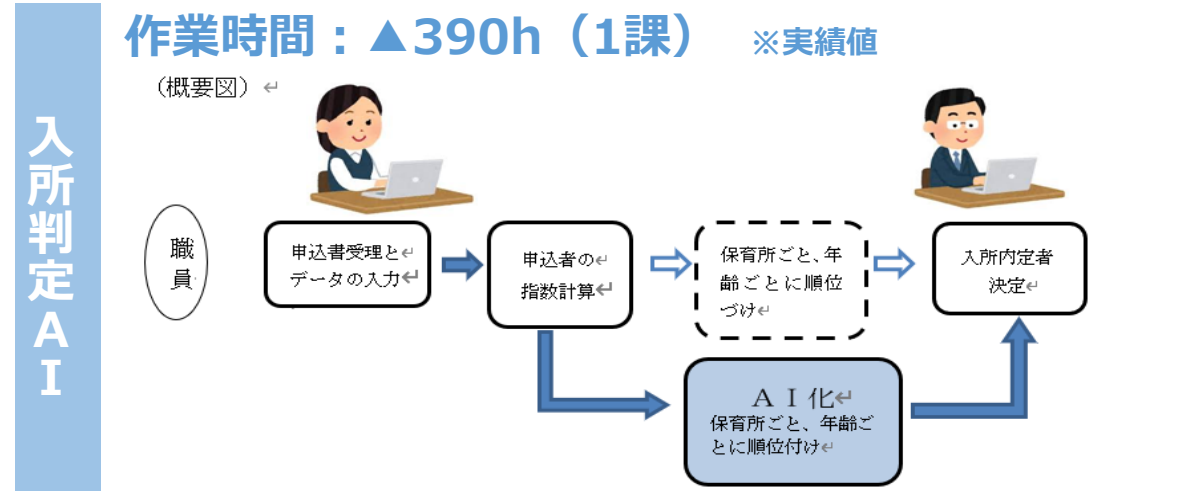
1-7. 業務特化型AIの現状（本市）

専門性の高い業務特化型AIは、各局で導入が進められており、市民サービス向上・業務効率化の両面で活用が進んでいる。ただし、市場のソリューション数を踏まえると、全庁的な導入数は**まだ少ない状況**。

市民サービス向上系



業務効率化系



1-8. 業務特化型AIの現状（他都市）

総務省のAI導入ガイドブックで他都市の事例が様々掲載されているため、関係局は是非一読いただきたい。

分野横断 ・窓口業務	•AIを活用した申請受付・審査支援システム【戸田市他】	情報化・ICT (文書管理・調査)	•AIリアルタイム議事録【青森県】			
	•AIを活用した総合案内サービス【愛知県内39市町村】		•AI-OCRによる行政文書の読取・データ化【つくば市】			
	•AIを活用したごみ出しに関する自動電話音声対応【守口市】		•AIを活用した音声テキスト化サービス【埼玉県内19市町】			
	•AIを活用した窓口での音声の文字表示システム【防府市】		•庁内会議における議事録作成【港区他】			
児童福祉・子育て	•AIによる保育所入所選考の自動化【さいたま市】		生活環境	•職員からのICT関連の問合せに関するナレッジ管理へのAIの活用【長崎県】		
	•AIを活用した児童虐待対応支援システム【三重県】			•各種統計データの傾向分析		
健康・医療	•AIを活用した特定健康診査受診率向上事業【宇都宮市】			観光	•AIを活用した指定管理者制度への問い合わせ対応【政令指定都市】	
	•市民の健康管理の手助けにAIを活用【神戸市】				•ごみの分別について、住民等からの問合せに自動回答【横浜市等】	
職員・税務・戸籍 (行政改革含む)	•固定資産税の課税客体把握事務における航空写真AI解析クラウド実証【前橋市他】				公共交通	•ゴミ収集車の撮影画像からごみ排出量を自動排出【藤沢市】
	•AIを活用した住民税の賦課修正業務の効率化実証【練馬区他】					•観光案内多言語AIコンシェルジュの導入【青森県】
	•未納者への催告業務におけるAI活用【川崎市】	•観光窓口への質問に対する自動応答【姫路市】				
	•AIによる職員業務実態の分析・可視化【宝塚市】	•市周辺の公共交通について、住民等からの問合せに自動回答【札幌市】				
福祉・介護	•AIを活用した介護予防【いわき市】	公共施設・インフラ				•AIを活用した公共交通オンデマンドバス【喜多方市】
	•AI活用に向けた民間事業者へのデータ提供【市川市】					•公共施設マネジメントに関わる意見やニーズ把握に向けた、住民等と対話形式アンケートの自動実施【新潟市】
	•IoT機器と連携した高齢者見守り支援【西条市】		•AIオンデマンド乗合タクシー【荒尾市】			
			学校教育・青少年育成			•AIを活用した道路管理システム【千葉市】
				•自動車走行取得データ等を分析し、道路における潜在的な危険箇所を把握【豊橋市】		
				•AIを活用した漏水箇所検知【豊田市】		
				•学校に関する質問・相談に自動回答【塩尻市】		

市民ニーズや業務課題を前提としつつ、シーズ（技術）起点の検討も加えながら、効率的に進める必要がある

2. 5つの主要取組・3つの中間KPI

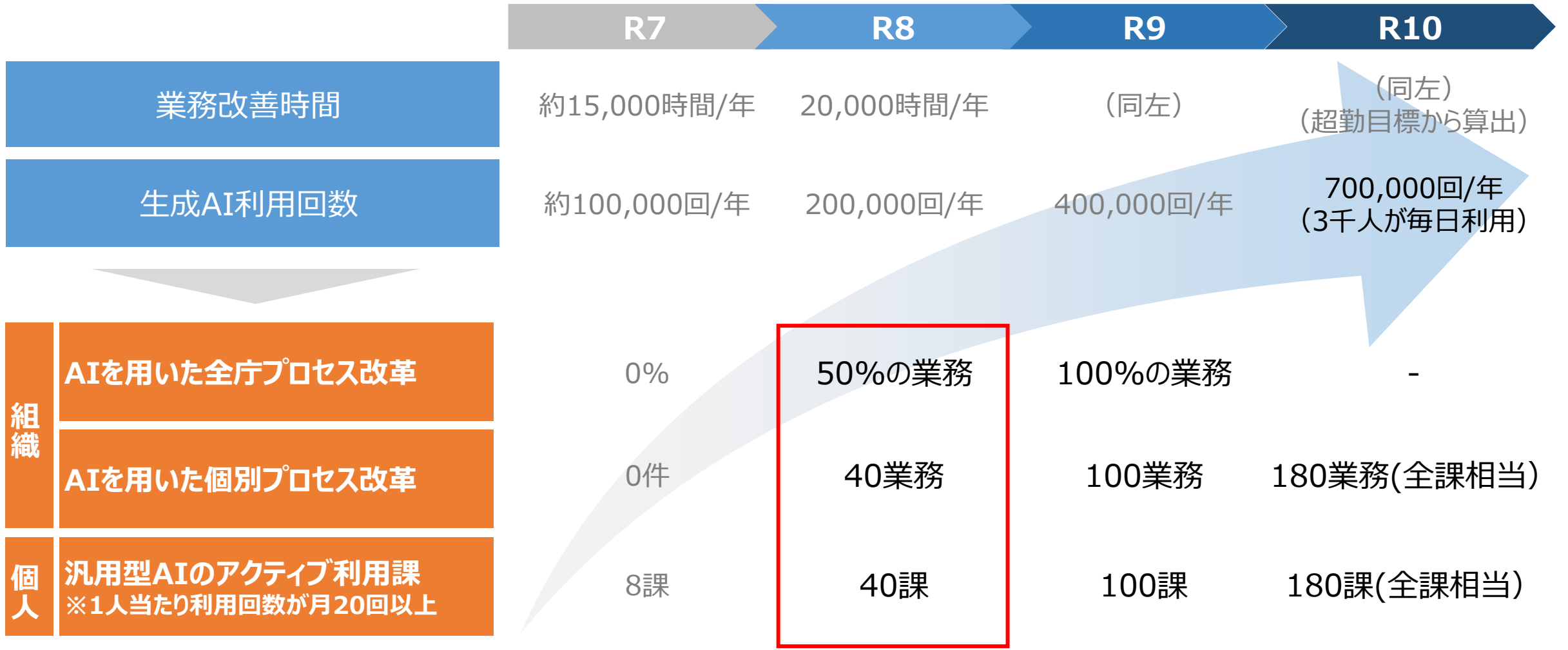
2-1. 5つの主要取組

冒頭に掲げた目指す姿の実現に向けて、以下の主要取組を実施する。単なる汎用型AIの導入に留まらず、**業務改革を優先的に行いながら**、先進的なAIの導入や内製化にもチャレンジする。

	主要取組	基本方針	アクション
<p>業務改革 (X)</p>	①個人レベル	全職員のAIスキル・リテラシー向上に向けて、 実践型の研修や、サポート環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> □ 実践型研修の実施（役職別） □ AIスキルアセスメントの実施 □ 出張サポート・ヘルプデスクの設置
	②組織レベル	CAIO、および組織横断のAI推進会議を設置し、 AIを前提とした業務プロセスにアップデートする	<ul style="list-style-type: none"> □ CAIO・AI推進会議の設置 □ 共通業務のプロセス改革 □ AIガイドライン等の改定
<p>AI導入 (D)</p>	③汎用型AI	全職員に優秀なAIパートナーを配備し、 全ネットワーク（3層）での導入を目指す	<ul style="list-style-type: none"> □ インターネット系・LGWAN系における新AIの導入（4000アカウント） □ マイナンバー系におけるAI導入検討
	④特化型AI	個別業務に特化したAIを、デジタル部門の支援を受けて 各局が調達する	<ul style="list-style-type: none"> □ 特化型AIの情報提供（デジタル部門） □ 特化型AIの導入検討（各局）
	⑤内製型AI	本市にフィットした柔軟性の高いAIを、 デジタル部門が中心となって開発する（PoC）	<ul style="list-style-type: none"> □ 内製プラットフォームの導入 □ AIアプリケーションの内製

2-2. 3つの中間KPI

前述の主要取組を踏まえて、DXプランのKPIよりも解像度の高い**中間KPI**を設定する。
プロセス改革に重きを置き、一部の部署だけがAIを使うのではなく、全部署の利活用を底上げする目標とする。



3. 各取組の概要

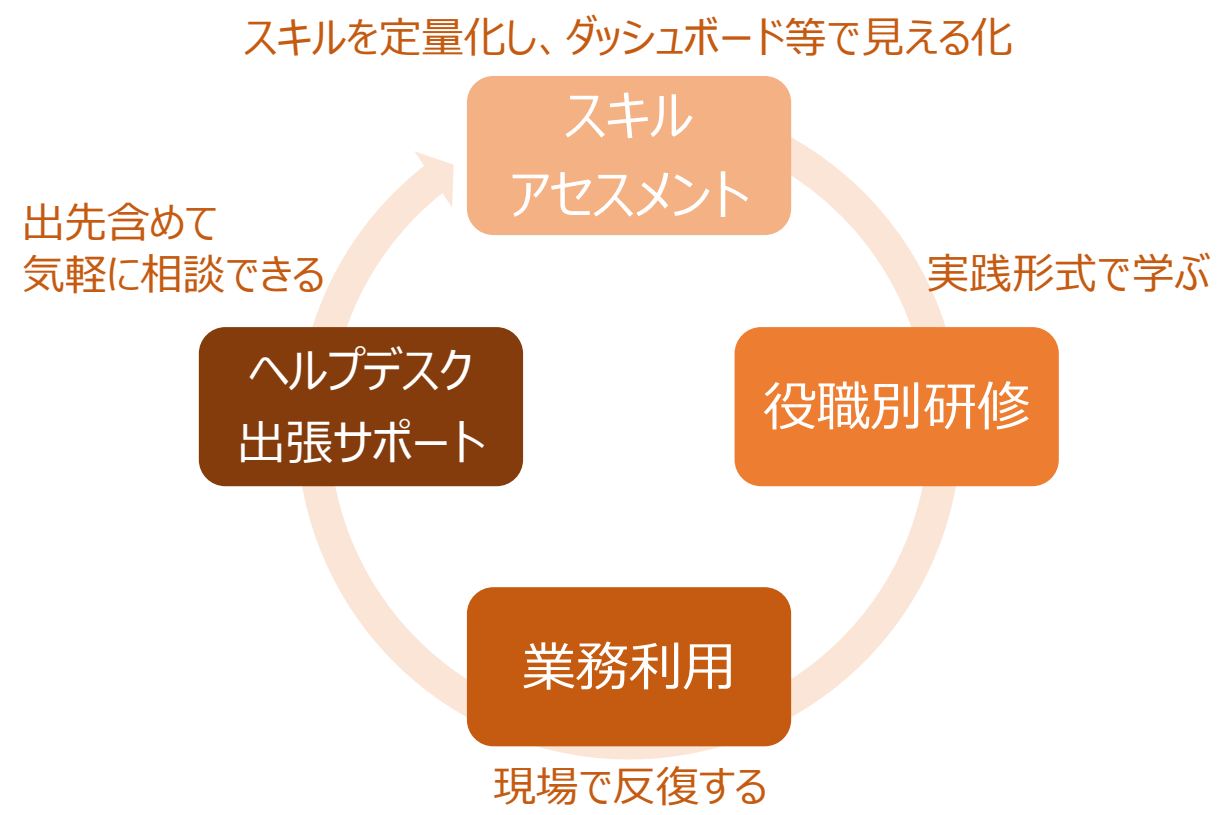
3-1. 業務改革（個人レベル）の取組

目指す姿の実現に向けて、**まずは人材育成**を取り組み、全職員がAIの利便性とリスクを理解・コントロールする力を身に着ける。AIは、kintoneやRPAのように一部の職員が使うものではなく、**WordやExcelのようにPCを使う全職員の基本スキル**となっていく。

全職員がAIを安全に使いこなす

【ゴール】
役職別のスキル習得

【プロセス】
成長サイクルを回す仕組み



DX推進員は、より高度なスキル習得を目指す

3-2. 業務改革（組織レベル）の取組

前述の人材育成に加え、**組織レベルの業務改革・制度の見直し**を行うことで、AI利活用を更に加速させる。
また、改革を効率的に進めるべく、CAIO（補佐官含む）とAI推進会議の設置を行う。

AI前提の業務プロセスにアップデート

【ゴール】

組織横断でのDX推進

- プロセス改革**
- 文書作成、決裁
 - 会議
 - 国や県からの通知・照会対応
 - 庁内問合せ
 - 予算要求 など



- 機運醸成**
- KPIの進捗管理
 - 庁内におけるAI情報の流通量UP

【プロセス】

リーダー・会議体の設置（R7年度中）

- CAIO**
- 【CAIO】本市におけるAIの利活用・リスク管理における責任者
⇒ デジタル政策監
 - 【CAIO補佐官】CAIOのマネジメントを専門的な知見から補佐する人材
⇒ デジタル戦略部長

- AI推進会議**
- DX推進会議の**専門部会**として、以下のような活動を行う
- ✓ AI起点の業務改革に関する議論
 - ✓ 各種KPIの進捗管理
 - ✓ その他AIに関する情報共有
- 【メンバー】
- ・ 部会長（副部会長）：デジタル政策監（デジタル戦略部長）
 - ・ 専属委員：各局室の企画管理課長
 - ・ 事務局：デジタル推進課
- 【開催時期】
企画管理課長会のぶら下がりでの実施

3-3. 汎用型AIの取組

汎用型AI（いわゆる生成AI）については、**マイナンバー系を含む3層ネットワーク**での配備を検討し、機密情報を扱う部署についても、AIのサポートが受けられるようにする。

ユースケース例

導入ロードマップ

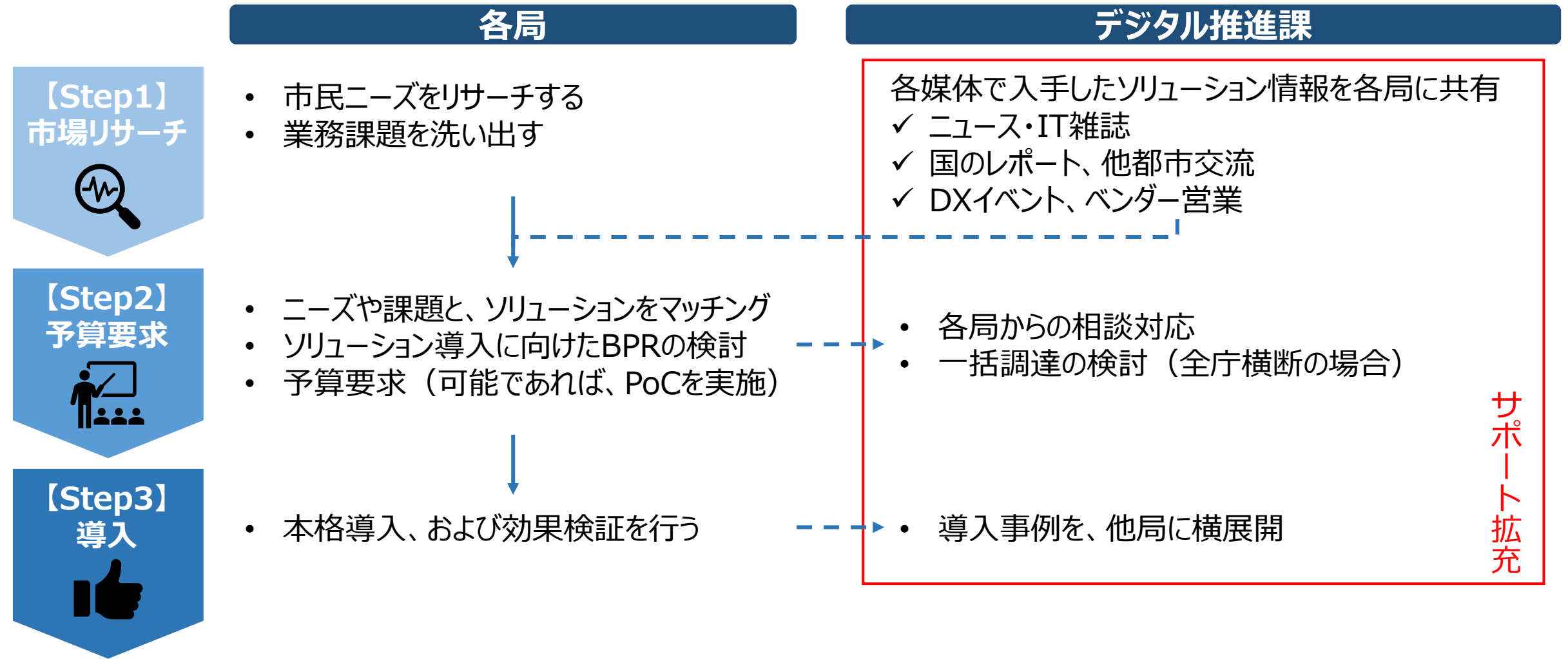
		導入ロードマップ		
		R7	R8	R9以降
インターネット系	オープンデータ	生成AI導入 (課で1アカウント)		
LGWAN系	個人情報 機密情報		新AI導入 (個人アカウント)	機能拡充
マイナンバー系	基幹系データ (マイナンバー)			新AI導入

- ✓ 通知文、市民対応の素案作成
 - ✓ 議会答弁の素案作成
 - ✓ 企画・プレゼン資料の素案作成
 - ✓ 法令・他都市事例の検索
-
- ✓ 個人情報が含まれるアンケートの分析
 - ✓ 人事・採用データの分析
 - ✓ オンライン申請、eLTax等のデータ分析
-
- ✓ 手続申請データの自動チェック
 - ✓ 相談業務の音声文字起こし・要約
 - ✓ 基幹データ（住民情報、税情報など）の分析

3-4. 特化型AIの取組

特化型AIについては、デジタル部門からの情報提供や相談対応などのサポートを拡充することで、検討量の増加を狙う。
※各局にて企画立案・予算要求を行うことは従来通り

特化型AIの導入フロー



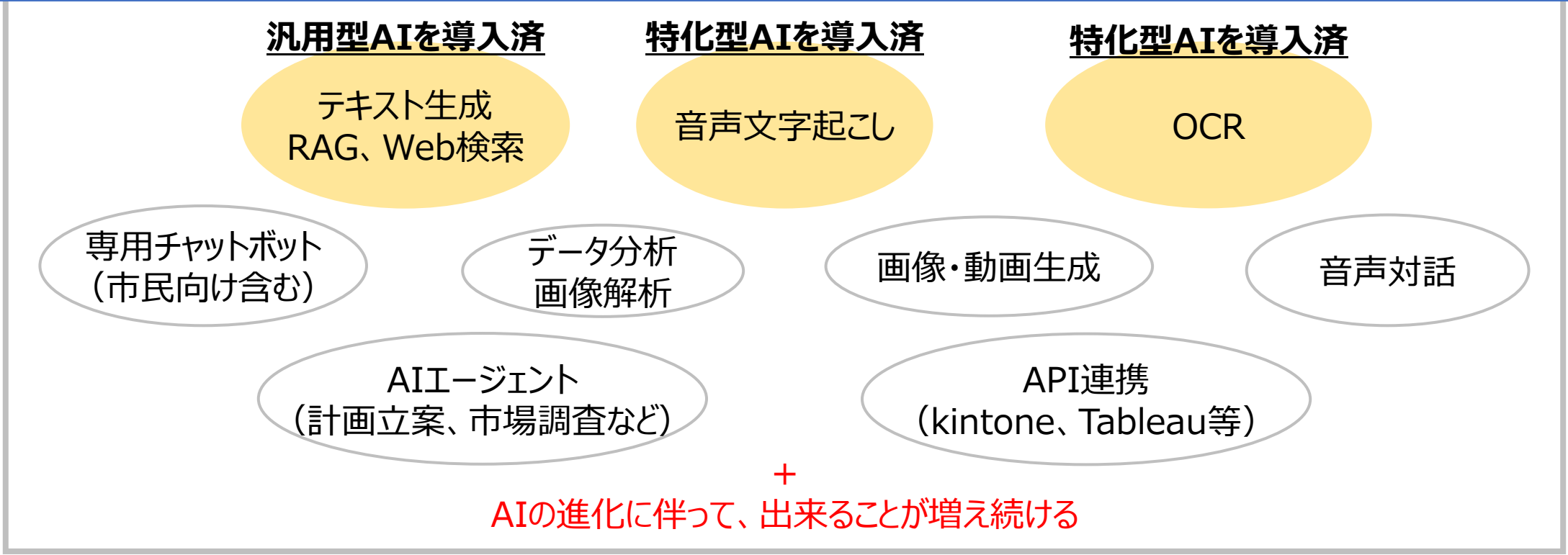
サポート拡充

3-5. 内製型AIの取組

AIアプリ開発ツール (Dify) について

- プログラミング無しで独自のAIアプリを内製することができる、**ノーコードプラットフォーム** (LangGenius社より、R5年度にリリース) 各種AIや外部ツールを自由に組み合わせることで、**現場のニーズに合わせたAIアプリをスピーディに開発できる**
- 企業などでは導入が進んでおり、メジャーツールとして認知されている (博報堂グループ、日本赤十字社、東京大学などが導入)
- R7.9月に「一般社団法人Dify協会」が設立された (設立者：LangGenius、NTTデータ、日本電子計算)

Difyで実装できる機能例



3-6. 内製型AIの取組（開発アプリ例）

Difyによって以下のようなアプリケーションが作成可能と考えられるが、非常にチャレンジングな取組であるため、アジャイル開発を前提に、**スモールスタート**で進めていく。

	概要	(現在導入済の汎用型AIの場合)
ニュース収集AI	<ul style="list-style-type: none"> 職員ごとに必要なニュースを自動収集し、メールで連携 	<ul style="list-style-type: none"> メールなどの外部ツールとの連携は不可
庁内チャットボット 市民向けチャットボット	<ul style="list-style-type: none"> 庁内ドキュメントを登録したうえで、問合せに回答させる 回答できなかったものはkintoneに自動連携し、職員が回答する 	<ul style="list-style-type: none"> kintoneなどの外部ツールとの連携は不可 市民利用は不可
企画サポートAI	<ul style="list-style-type: none"> マーケット調査やレポート作成、プレゼン資料作成などを支援 課ごとにリサーチ手法や、参照する課のドキュメントを分けられる ※主に事業系で活用 	<ul style="list-style-type: none"> プロンプトで簡易的なことは可能だが、細かいロジック設定は難しい
ナレッジサポートAI	<ul style="list-style-type: none"> 課内の業務データを蓄積し、職員の意思決定を支援 ※主に窓口系・内部管理系で活用 	<ul style="list-style-type: none"> 課ごとのカスタマイズは不可
データ分析AI 画像解析AI	<ul style="list-style-type: none"> 様々なデータを基に、将来推計やモデル最適化を行う 道路や水道管の画像を読み込ませて、欠損をチェックさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的に高度なデータ分析は非対応 画像解析は非対応

各課のニーズを聞きながら、デジタル推進課がAIアプリを開発していく

3-7. 全体スケジュール（イメージ）

全体スケジュールは以下のとおり。AI導入の取組については、予算要求を意識した逆算スケジュールで実施していく。

